

後期高齢者広域連合議会が開かれる

田端議員（御坊市）が反対討論 「制度そのものに反対します。」

7月28日に、和歌山県後期高齢者医療広域連合議会が開催されました。令和元年度決算が報告され、約17億円の差し引き額が出ましたが、国庫負担金の返還が約20億円にのぼりました。本来でしたら取り過ぎた保険料は返すべきだと思います。

討論では、田端議員（御坊市）が反対討論に立ちました。田端議員は、「そもそも年齢で高齢者を差別する制度である」「国は医療費抑制が本音であり、被保険者に犠牲をおしつけるもの」と指摘しました。この制度が75歳以上という収入の低い、医療費がかかる人達を囲い込んで1つの医療保険制度をつくること自体が問題で、年金しか収入がない人が半数を占め、保険料負担が生活を圧迫しています。今後高齢者が増えるにつれて保険料が引き上げられます。田端議員は「制度そのものに反対します。」と述べました。

◎保険料軽減特例の縮小によって、軽減を受ける被保険者が激減

保険料の軽減特例が改悪され、軽減を受ける被保険者が激減していることがわかりました。低所得者の均等割軽減を受けた人は、124,091人（2018年）から122,541人（2019年）に2.3%減少。被扶養者であった方の軽減措置を受けた人は16,079人（2018年）から11,624人（2019年）に28.8%と3割近く減少しました。

◎人間ドッグの補助実施は18市町

和歌山市 海南市 橋本市 有田市 御坊市 田辺市 紀の川市 岩出市 かつらぎ町
湯浅町 広川町 有田川町 美浜町 日高町 日高川町 白浜町 上富田町 太地町

※後期連合側の説明によると、がん検診との組み合わせを行う市町村もあり、人間ドッグの利用者数が少ない自治体もあるとの話で、方針転換が起きているという認識でした。

◎コロナによる保険料減免制度を条例化

国の方針に基づき、コロナウイルス感染症の影響で減収した被保険者に対する保険料減免制度が条例化されました。

今年も不服審査請求運動に取り組んでいます。

- 審査請求人を増やして下さい。
- 団体署名を広げて下さい。
- 「怒りのひとことカード」にあなたの怒りを！

◆8月31日（月）12時20分西の丸広場集合→県庁までパレード

午後1時 県へ審査請求提出行動（県庁内）

午後2時 後期連合へ要請（日赤会館・広域連合事務所）